Kamagaya International Friendship Association

K·I·F·A Plaza

第15号

1992年10月16日発行
〈発　行〉
鎌ケ谷市国際交流協会
編集・広報部会

活動報告　1992年度 海外派遣事業 ニュージーランド

特別企画	新しい風	2・3・6面
写真特集	白く長い雲のたなびく国	4・5面
その他	僕の私の海外体験	7面
	Miscellaneous Information	8面

FARM STAY

タウランガ（ニュージーランド）の農家に泊まっての生活体験。

緑豊かでのんびりとした農村風景に接するだけでなく宿泊先の家族と一緒に生活して交わすコミュニケーションもまた、大きな魅力。

タウランガ市の横顔

タウランガ市は、人口6万7千人でニュージーランド北島のプレンティ湾に面し、この国最大の輸出港であるタウランガ港を中心に発展してきたまちです。

また、温暖な気候と豊かな自然を利用した果樹栽培も盛んでキウィフルーツの生産地として有名なまちです。

新しい風

真の「国際交流」とは

大学2　山本　哲司

「国際交流」という言葉をよく耳にするが実際は何のことだろう。私は今回の派遣においてその事を考えさせられる数々の場面に接することが出来た。

日本人留学生の集団意識むき出しの態度やマナーを知らぬ観光客など決して喜ぶべきものではない。確かに最近日本人は観光や留学その他で海外に出かける機会が多い。しかしながら彼らは常に日本人の価値観で海を越えた人々と接し、解釈してきているのではなかろうか。実際、日本人の価値観で物を見てしまうのは仕方のないことかもしれない。日本人であることには変わりなく、普段は日本で生活していることを考えれば、その国の人々になりきることは決して出来ないからである。だが、それ以前の問題として私の見てきたニュージーランドの日本人の多くは常識に欠け思いやりの心の一つも見せなかった。

私のタイの友人は日本人はうわべだけの人間だ、優しい言葉をかけてくれるけど本当はそう思っていない、と言っている。必ずしも彼の言うことが全ての人に当たるとは思わない。しかし、少なからずそのように思っているということは本当に残念なことである。

言葉ではコミュニケーションをはかるのは簡単だ。しかしその言葉に思いやりの心がなければ、本当にコミュニケーションをはかっているとは言えないのではなかろうか。私は本当の「国際交流」とは相手の価値観を尊重し、本音で相手と接することだと思う。私がニュージーランドで見てきた多くの日本人のように、日本人根性むきだしで海外の人と接すれば、この国際化が叫ばれる時代において本当に日本人が理解されるのは難しいことだと思う。同じ人間なのだから、日本人であろうとそのほかの国の人であろうと言葉は違っていても、心からコミュニケーションをはかり、常に思いやりの心を持っていれば、本当の意味での国際交流にもっと近づくのではなかろうか。

私はこれからの国際交流はもっと HEARTFUL COMMUNICATION が必要になっていくだろうと思いながら日本に帰ってきた。また自分もその担い手の一人になろうといま痛烈に思うのである。

ニュージーランド　スタイル

短大1　鈴木　さやか

今回のニュージーランドの旅は人々の暖かさに多く触れたすばらしい旅でした。

数々の施設訪問では、私たちは、ただの見学者ではなく Tea time を共にすごしてくれたりと、わずかな時間ながらそこに働いていたり、施設を利用している人々と交流することができたのは、この旅ならではでした。

普通の町のお店に入っても、商売とは関係なく店員は「どこから来たの？ニュージーランドを楽しんでいってね。」などと暖かい声をかけてくれます。出会う人皆、暖かい人ばかりでした。

こんな人々の暖かさは――私は、ニュージーランドスタイルから生まれたものだと思います。

ニュージーランドスタイルとは、例えば、パーティーの場合、日本人は何時に○○宅ときちんと時刻を決めますが、ＮＺスタイルだと、みんなが揃ったらはじまりで特にきっちりとした時間は決めないのです。いいかげんと思うかも知れません、始めは私たちも、そんな意味で冗談でこれは日本で使うといいぞなんて言っていましたが、今思えば、この時間に束縛されない生活が心にゆとりをもたらし、なんとも言えないＮＺの人々の暖かさが生まれるのではと思いました。

ＮＺスタイルで人々は人生を楽しんでいます。

日本人も、もっと心にゆとりをもつために、ＮＺスタイルをとり入れてみたら良いかもしれません。

あまりに充実し毎日が新しい発見の15日間だったゆえ日本での生活がたいくつになるのではと予感しながらの帰国でした。

この19歳という歳に、このメンバーと共に派遣に参加

できたことは、私の人生にとって大きなプラスとなることでしょう。

笑顔のたえないニュージーランドの人々

高２　万歳　史真

白い雲のたなびく国、ニュージーランドは、本当にとても良い所でした。何が良いかというと、まず食べ物がいいです。ラムやビーフのステーキ、アイスクリームはとてもおいしく安く、果物は、どれも新鮮でおいしいです。安いお金で、たくさん食べられる事は食欲旺盛の私にとって、幸わせの日々でした。日本に帰って来た今、毎日ステーキやアイスクリーム、ケーキが食べたくてしようがありません。

しかし、日本でそのような事をしてしまったら、私の財布はスッカラカンになってしまうので、そのお金をため、いつかまたニュージーランド（ＮＺ）へと考えています。

次に、ＮＺの国民性がいいです。ＮＺの人の性格は、大らかで、ゆったりとしています。その為、みな親切で生活の中で笑顔がたえません。私は、ＮＺで二度ヘマをして物を壊してしまいましたが、険悪な雰囲気になる事はなく笑って許してくれました。

ファームステイでは、ボブとメーリーの老夫婦の家に５泊でしたが、一緒に折り紙をしたり、散歩したり、オリンピックを見ながら話したりと短かい間ながらも楽しく過ごせました。また、習字道具を持っていったので、何か書こうと思ったのですが、言葉が見つからず、メーリーを「真理」、バーバーを「理髪店」と書きました。

メーリは、大変喜んですぐ壁に飾ってくれたのですが日本人から見ると異様な言葉になってしまいました。

私が、ボブとメーリーから言われた言葉で嬉しかったのは、「あなたは、もうキウィだね。」と「あなたは、もう私達の娘の様だ。」です。しかし、キウィとはＮＺ人を指すので、私は英会話が出来る様になったという意味だと解釈したら、よく食べて太ってキウィになるという意の様でがっかり、後の方の言葉は涙が出る程感動しました。

ＮＺの旅は、一生忘れない、そして二度と体験出来ない最高の研修旅行でした。

Farm Stayでの日々

大学４　宮野　啓子

まず、家族構成を述べますと、この夫婦には、二人の子供がいます。二人共もう独立してしまったので二人で

暮しています。そのせいもあってペットのベン（犬）を子供のようにかわいがっています。

今回のメンバーのステイ先は、それぞれが非常にユニークでしたが、私の所は、ちょうど平均ぐらいだったのではないかと思います。いつでも様子をうかがいにくることはありませんでしたが、一つ一つの事について説明質問を細かくしてくださいましたので（これはMaryが学校の先生だという事が大きく影響していると思います）毎日が新しい発見でいっぱいでした。

食事は、常にMaryがつくります。健康には、随分注意しているらしく、脂肪の少ない肉、たっぷりの野菜など私にとっては嬉しいものばかりでした。

Tonyは、17才の時にオランダから移住してきたのでオランダ語も話せます。普段は話さないのですが、たまに単語として用いたりするので、それが英語かオランダ語かも区別のつかない私を更に混乱させてくれたりします。

そういえば、私がステイしていた間、Tonyはいつもプールの修理をしていました。錦鯉が似合いそうな美しいプールの排水管がつまったのです。このような仕事までこなしてしまうなんて50才まで会社にいた人間とは思えない！というと、家の設計もできるとの事。これなら老後が楽しいだろうなとひしひしと感じておりました。

ステイの最終日の夜は、着物（ゆかたですが）を着てみたいとMaryがいいだしたので着せてあげました。私より、ほんのちょっぴり横に大きいMaryにもあんなにぴったりと着せることができるのは和服ぐらいでしょう。（残念ながらぞうりは入りませんでした）

折り紙を教えたら、〝生徒に教えてあげる〟との事。日本文化の一つ一つに触れ、大切にしてくれる素敵なファミリーでした。

Japanese Nashi in New Zealand? Yes! Students hear about an experimental Nashi orchard at an agricultural school in Tauranga. (専門学校の農園で梨栽培を学ぶ)

Tauranga City viewed from Mt. Maunganui. (タ

The mayor of Tauranga is presented with a message-plaque from a Kamagaya representative.
(鎌ヶ谷市長からタウランガ市長へのメッセージを伝達)

青少年海外派遣（ニュージーランド）日程表

日付	日程	日付	日程
7／29	ニュージーランドへ向け出発（機中泊）	8／6	ロトアル・レインボースプリングス・ワカレワレワ観光（タウランガ）
7／30	オークランド着・市内観光（オークランド）	8／7	青果栽培組合長の講義・ビクトリアン大学訪問（ウエリントン）
7／31	TAMAHERE 老人ホーム訪問（ハミルトン）	8／8	市内観光（ウエリントン）
8／1	ワイトモ鍾乳洞見学（ハミルトン）	8／9	フェリー&列車（クライストチャーチ）
8／2	ファームスティ先のホストと対面（タウランガ）	8／10	市内観光（クライストチャーチ）
8／3	タウランガ市長訪問（タウランガ）	8／11	LAURA FEVGUSON HOME 現地福祉施設訪問（クライストチャーチ）
8／4	OTUMOETAI COLLEGE 訪問 歴史村訪問（タウランガ）	8／12	日本に向かい空路帰途（成田）
8／5	BAY OF PLENTY 専門学校訪問（タウランガ）		

A quick road-side stop to take a picture and enjoy New Zealand's beautiful scenic farm land.
(ニュージーランドの風景、羊牧場の前で)

ったなびく国

ウランガ市の海と陸の眺望〈マンガヌイ山から〉)

KIFA student members pay a visit to a home for the aged and give a few tips on Origami to residents. (老人ホームで折り紙を通し交流)

A representative at a center for the disabled receives gifts and greetings from the kamagaya delegation. (身体障害者施設で鎌ヶ谷市からの記念品を贈呈)

Lunch was served to all students at a local farm before they departed for their respective hosts.(牧場主のお宅で昼食)

Members pose in front of the gate and entrance to Maori village; former and current home to many of the ancient Maori settlers.(マオリを印す大彫刻・マオリ村入口)

雑　感

リーダー　入戸野恵子

今回ニュージーランドを旅して感じたことは、彼らが皆、心の広い優しい人たちだということです。ある時こんなことがありました。偶然橋のたもとで馬車を見かけました。馬にはカバーがかけられ、御者さんも赤い制服を着ています。「今日は」と声をかけ、植物園へ行く道を尋ねました。「もし乗れたら乗せてくれませんか。」とお願いしたところ、時計を見て考えていましたが、「入口までよかったら」ということで私たちは馬車に乗ることができました。又ホームステイでビデオが映らなかった時、ラッセルとダイアナが真剣に新しいのを買おうとか話しています。「そんなにして下さらなくても」と言うと「心配しなくてもいい。明日ダイアナがもう一度店から借りてくるから」と言って、今度はテレビと両方借りてきてくれました。日本のビデオは、普通のものでは映らないようです。翌朝ラッセルと私はもう一度箱にテレビとビデオを収め、ダイアナの車に積みました。

ニュージーランドの地名、貝の名前、鳥の名前にはマオリ語が断然多いということに気づきました。Tauranga（=anchorage錨を下ろして停泊する地）、Mt. Maunganui、ロトルア（Roto=lake,rua（２番め）、Aotearoa（Land of the long white clouds白雲たなびく国）、Kiwi、ポフツカワ（クリスマスの木）などです。昔マオリとの衝突や土地をめぐってとり交わした条約などを思えば納得がいきます。

美しいモナヴェイルでの昼食―庭園内をエイボン川がゆったりと流れ、柳がしだれる川面の絵のような美しさ。イギリスよりもイギリス的と言われるクライストチャーチ。Arahura号での３時間以上にわたる船旅など楽しい経験を一杯いただきました。色々な事がありましたが、これらの経験がすべてを浄化して尚余りあるものであったことは大変嬉しく感謝にたえません。

最大の収穫

高２　水澤　達郎

ニュージーランドへ行く前夜、僕はうれしくて、うれしくて初めての遠足に行く気分でした。

明日になれば、小さなころからあこがれていたあの飛行機に乗れる。そう考えるだけで、ハッピーになれました。しかし、やっぱり「初めて」には不安はつきもの、英語なんて知らないけど大丈夫かなとか、仕舞いには飛行機は実は飛べないんじゃないかな、なんて考えたりしていましたが、なかでも一番心配で心配で仕方なかったことは、メンバーのことでした。ついこの間、初めて顔を見たばかりで、まだ、３～４回しか会っていない人といきなり２週間もの間、遠く離れたニュージーランドでうまくやっていけるだろうかと。

始めのうちは、やはり少しぎこちないところがありましたが、飛行機を降りたときはもうほとんどうちとけていました。

このメンバーは、前から知ってたという人とかたまらず、みんなと一緒にという感じでしたので、とてもよかったです。また、みんな何処へいっても日本人という意識がなく、とても積極的だったので、僕なんかとてもつ

いていけず、「えらいグループに入っちまったな」と思いました。しかし、「慣れ」というものが僕の味方になってくれたので、旅の後半はとても楽しく、有意義なものになりました。

ここで忘れてはならないのが、市役所の高岡氏です。はじめに市役所の人が同行すると聞いたときは、まじめな旅になりそうな気がしましたが、実際はとても楽しくたよりになる人です。

すでに、僕たちは、ＫＩＦＡ以外に何回か会っていますが、それも高岡氏の僕たちの親への信頼と、一人一人の気持ちの表れだと思います。

今回、ニュージーランドへ行って、この素晴らしい人々と知り会えたことが最大の収穫だとおもいます。

僕の私の海外体験

シンガポールに住んだこと

鎌ヶ谷小６年　吉村　大作

ぼくは、ようち園の年長の時から、小学３年の一学期まで、シンガポールに住んでいた。

シンガポールは、人口200万人位の小さな国だが、いろんな国の人達が住んでいて、いろんな言葉、行事、そして食べ物があって、とてもおもしろかった。

ぼくは、シンガポールの日本人学校に通っていた。日本の学校とのちがいは、毎日、スクールバスで学校に通っていた事と給食がなかったので、毎日、弁当と水とうを持って行っていた事と、週に１、２回英語の授業があった事です。また、１年中夏なので、水泳の時間が多かった事と、運動会が６月だった事ぐらいで、あとは日本の学校と同じだった。

シンガポールは、日本とちがって、道路も広いし、公園も広いし、家も広いし、学校の校庭や体育館がかなり広かったので、のびのび遊ぶことができた。

日本のデパートがいくつかあったので、そこでよく日本の本やおもちゃや食べ物を買ったが、日本で買うよりか、はるかに高い値だんだった。ぼくの一番の楽しみは父が仕事で日本に帰った時に、ファミコンのカセットを買ってきてもらうことだった。

シンガポールの町は、緑がいっぱいでとてもきれいだった。それに、高くてかっこいい形の建物が多かった。特に、70階建のホテルを見た時は、すごいなと思った。

ぼくの住んでいたマンションは35階建てだった。

学校が休みの日はよくでかけたが、シンガポールは国がせまいし、車のじゅうたいもほとんどないので、どこに行くのも近かった。それに、バス代やタクシー代が、とても安かった。

ぼくは、３年間のシンガポール生活で、いろんな経験をして、楽しい思い出をたくさん作ることができた。

私　の　国

西部小６年　片山　裕子

私は、ヨーロッパのベルギーという国に幼稚園の時から６年間住んでいました。ヨーロッパのベルギーといっても知っている人は、ほとんどいないと思いますが、とってもすてきな国です。

私が、ベルギーから日本に帰ったのは、昨年の７月のことでした。

その時、日本とベルギーとではちがうところがいっぱいあり、びっくりしました。その中でも、一番大きくちがっているなと感じたところは公園です。ベルギーの公園は日本の公園とちがって、とても広いものです。その公園の中にはふん水があり、花がきれいに植えられた花だんもあります。そして、しばふがどこまでも続いている緑の豊富な公園です。

その公園でベルギーの人たちはどんなことをするのかというと、例えば、おとしよりの人がベンチにすわってゆったりとくつろいでいたり、犬をつれて散歩をしたりしています。ちょうど私が日本に帰るころは、花だんに花が色とりどりにさいている時期でした。その花を描いている人がいました。私もその人たちといっしょに絵を描きたいなと思ったことをいまもおぼえています。

私の住んでいたマンションのとなりの公園には、フィールドアスレチックがありました。フィールドアスレチックで遊びながら、体をきたえることができました。この公園のもうひとつのよさは、公園の中に森があることです。そして、その中にくりの木があり、秋になると、大きな実、小さな実ができます。大きな実は、くりごはんにできるものです。

ベルギーの公園は、季節をいつも感じることができるものでした。

ところで、日本の公園は、どうでしょうか。ベルギーのように広くて、緑豊かな公園でないことが残念です。

しかし、日本の公園には、すべり台やブランコなど子どもの遊ぶ道具があります。そこで遊んでいる小さな子どももたくさんいます。だから日本の公園は、子どものためにつくられたものだと思います。広くはないけれど楽しく遊ぶことができるものです。

このように、ベルギーの公園と日本の公園には大きなちがいがあります。

私は、６年間のベルギーでの生活で、公園以外にも、ベルギーのよさをたくさん知ることができました。そして、たくさんの想い出もできました。

これからもベルギーでの想い出を大切にしたいと思っています。そして、日本のよさもどんどんさがしていきたいと思っています。

カナダ高校生のホームステイ受け入れ

来日カナダ高校生を７月16日から８月１日（７月26日～29日は、日本アルプス合同キャンプで長野県白馬村へ）の期間、四家族の方々にホームステイを受け入れていただきました。

異った文化、習慣、言葉、物の考え方などを学び合いお互いの理解を深め、生活を通じての友情を育みました。

● ７月23日（木）　ＰＭ４：00～

市長表敬訪問、歓迎会を市総合福祉保健センター６階、大会議室において行いました。

◇　ホストファミリー

○山本　剛様（西道野辺）…… Daniel Buller
○遠藤　昌宏様（くぬぎ山）…… Joseph Sanlnier
○小川　郷美様（初　富）…… Jennifer Gordon
○米田　祥子様（西佐津間）…… Soukaseum Viloysane

Four students from Cananda stayed with four host families in Kamagaya from July 16th to August 1st.

青少年赤十字国際交流会に協力

県青少年赤十字設立100周年記念事業の一環としての国際交流会に来日した、タイ国高校生及び指導者の方のホームステイ受け入れに協力しました。地域、学校などにも国際交流の輪が広がりました。

◇　日程

● ７月28日　市長、教育長表敬訪問・昼食会
● ７月29日　東部公民館において歓迎会
● ７月30日　学校訪問（鎌二中）
● ７月31日　中央交流会参加（千葉市）

◇　ホストファミリー

● 冨澤　一隆様……ソングポーン・トレングトラジクル(高校生)
● 荒井　茂行様……ポーンジ・カナヤイ　（〃）
● 西沢　依子様……トンダク・アントナ　（〃）
● 竹内　明様……ヌアンサモーン・カマスンダラ　(指導者)

Junior Red Cross members from Thailand set out to meet their host families after a reception lunch at Kamagaya city Hall.
The 3 youths and their leader were hosted by Kamagaya families from July 28th to the 31st.

一世界の文化交流No. 7 一　本場、中国の味をご家庭で

去る６月28日、南部公民館にて、33名の方々の参加のもと、ホテル・ニューオータニの大観苑、呉　祥勇料理長をお招きし、プロの味をご指導いただきました。

料理と談話にお昼のひとときを楽しみました。

Chief cook for The Hotel New Otani in Tokyo and Kamagaya resident, Mr. Shoyu Go, gives a cooking lesson to eager Kamagaya residents.

市民夏まつり(フリーバザール)に参加して

去る８月22日に貝柄山公園にて開催されました、第18回市民夏まつりに、本協会も各部会から皆様の応援をいただき参加いたしました。

協会のＰＲ、会員募集等に積極的に取り組みました。

スタッフの皆様ご苦労さまでした。

編　集　後　記

語学研修講座でおなじみの、スティーヴ・バーク先生が、ＫＩＦＡ会報誌作成のお手伝いをして下さる事になりました。ネイティブスピーカのバーク先生が加わって下されば百人力。後は、あなたのアイデアと意気込み次第。

新しい部会員大歓迎。